



2019年3月期(平成30年度)
第3四半期決算説明資料

2019年2月13日

ダイキン工業株式会社

■ 第3四半期決算概要

過去最高の売上高・営業利益を更新。

空調事業は、日本・米州・欧州を中心に主要各地域で販売を拡大。化学事業は、半導体・自動車向けに販売を拡大し、営業増益を達成。

米中貿易摩擦に伴う世界経済の減速、中国の需要鈍化など経営環境の厳しさが増すなか、高付加価値商品の拡販、売価施策の徹底やトータルコストダウンの推進により、通期計画の達成をめざす。

(億円)	1-3Q実績			2018年度計画	
	2017年度	2018年度	前年度比	11月公表	前年度比
売上高	17,224	18,752	109%	24,800	108%
営業利益 (利益率)	2,012 (11.7%)	2,138 (11.4%)	106%	2,700 (10.9%)	106%
経常利益 (利益率)	2,043 (11.9%)	2,159 (11.5%)	106%	2,680 (10.8%)	105%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (利益率)	1,539 (8.9%)	1,499 (8.0%)	97%	1,800 (7.3%)	95%

USD/円

¥112

¥111

¥109

ユーロ/円

¥129

¥129

¥130

中国元/円

¥16.6

¥16.6

¥16.5

○為替影響(対前年度)

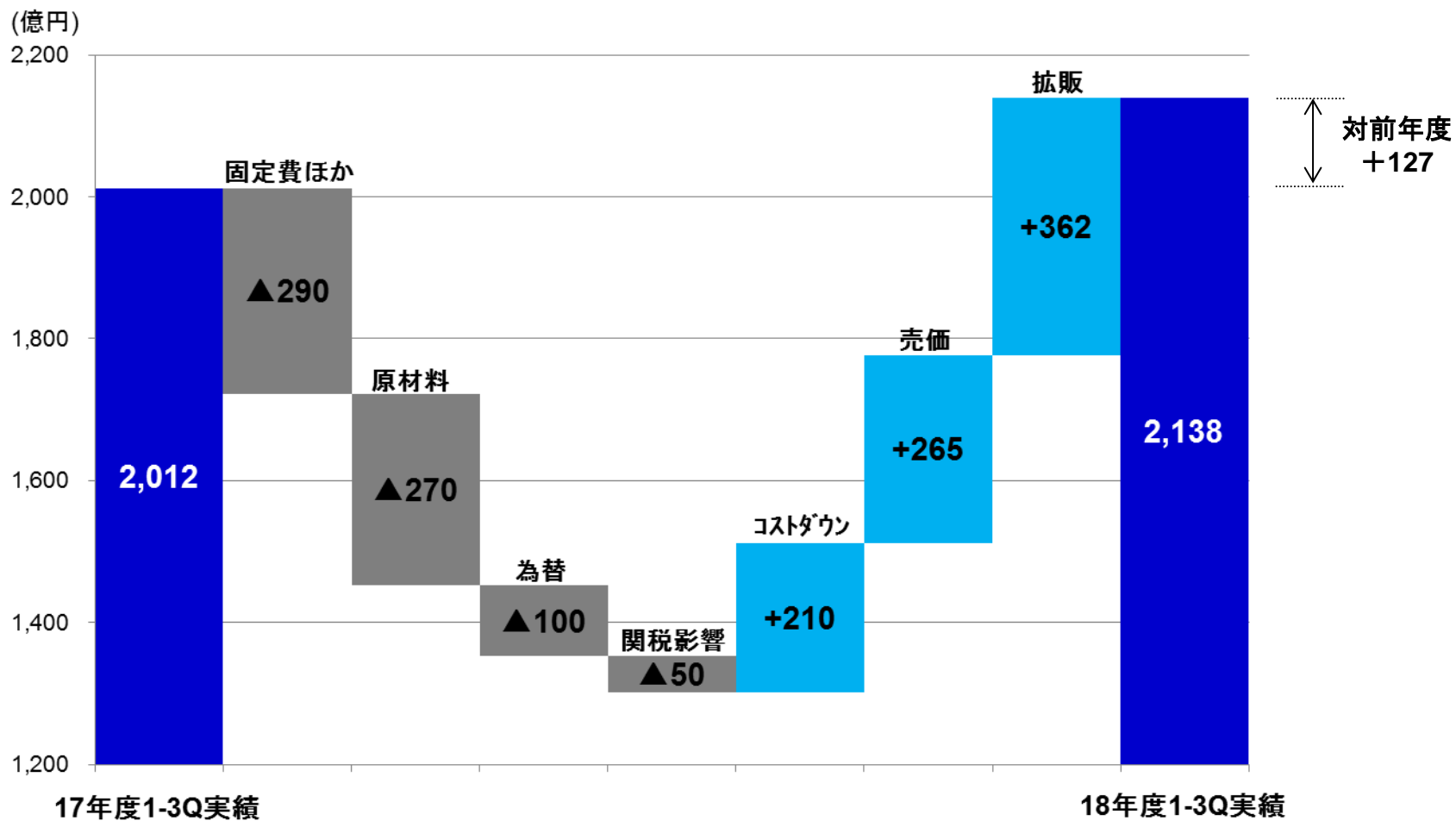
売上高 ▲150億円

営業利益 ▲100億円

■セグメント別第3四半期業績

(億円)		1-3Q実績			2018年度計画	
		2017年度	2018年度	前年度比	11月公表	前年度比
全社	売上高	17,224	18,752	109%	24,800	108%
	営業利益 (利益率)	2,012 (11.7%)	2,138 (11.4%)	106%	2,700 (10.9%)	106%
空調	売上高	15,573	16,872	108%	22,200	108%
	営業利益 (利益率)	1,807 (11.6%)	1,854 (11.0%)	103%	2,340 (10.5%)	105%
化学	売上高	1,305	1,494	114%	2,050	112%
	営業利益 (利益率)	178 (13.7%)	247 (16.6%)	139%	310 (15.1%)	122%
その他	売上高	346	385	111%	550	101%
	営業利益 (利益率)	27 (7.7%)	37 (9.5%)	138%	50 (9.1%)	105%

■ 営業利益増減分析



■ 地域別売上高の推移-空調事業

※冷凍・冷蔵機事業、フィルタ事業含む

※パーセンテージは前年度比

(億円)	2014年度1-3Q		2015年度1-3Q		2016年度1-3Q		2017年度1-3Q		2018年度1-3Q		2018年度計画	
	日本	97%	3,098	99%	3,077	105%	3,227	105%	3,402	107%	3,641	105%
ヨーロッパ	101%	1,705	110%	1,881	96%	1,812	118%	2,145	112%	2,399	110%	3,300
中国	110%	2,632	103%	2,701	92%	2,484	115%	2,863	102%	2,929	105%	3,600
米州	118%	3,281	116%	3,790	100%	3,805	114%	4,325	112%	4,863	112%	6,350
アジア	115%	1,537	114%	1,746	97%	1,691	109%	1,845	110%	2,033	111%	2,800
オセアニア	106%	324	109%	353	106%	376	146%	549	105%	579	106%	780
中近東	95%	305	117%	356	94%	334	117%	389	93%	362	97%	550
アフリカ	107%	74	110%	82	69%	56	100%	56	115%	65	99%	90
計	107%	12,955	108%	13,985	99%	13,784	113%	15,573	108%	16,872	108%	22,200
海外売上高比	76%		78%		77%		78%		78%		79%	
USドル/円	¥107		¥122		¥107		¥112		¥111		¥109	
ユーロ/円	¥140		¥134		¥118		¥129		¥129		¥130	
中国元/円	¥17.3		¥19.3		¥16.0		¥16.6		¥16.6		¥16.5	

■ 地域別売上高の推移-化学事業

※パーセンテージは前年度比

(億円)	2014年度1-3Q		2015年度1-3Q		2016年度1-3Q		2017年度1-3Q		2018年度1-3Q		2018年度計画	
	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円
日本	97%	263	110%	289	104%	299	114%	342	117%	400	113%	530
米州	107%	272	114%	309	89%	275	110%	302	113%	341	113%	480
中国	109%	260	101%	264	90%	238	121%	288	103%	295	97%	375
アジア	110%	109	124%	135	90%	121	131%	160	120%	192	124%	280
ヨーロッパ	111%	107	165%	177	90%	159	128%	204	124%	252	120%	375
その他	36%	8	107%	8	89%	7	137%	10	135%	13	72%	10
計	104%	1,019	116%	1,182	93%	1,100	119%	1,305	114%	1,494	112%	2,050
海外売上高比		74%		76%		73%		74%		73%		74%
USドル/円		¥107		¥122		¥107		¥112		¥111		¥109
ユーロ/円		¥140		¥134		¥118		¥129		¥129		¥130
中国元/円		¥17.3		¥19.3		¥16.0		¥16.6		¥16.6		¥16.5

日本

住宅用の業界需要は、堅調な個人消費に加え、夏季が猛暑であった影響もあり、前年度を上回った。

業務用の業界需要は、設備投資と建築着工が堅調に推移し、前年度を上回った。

当社は、住宅用・業務用ともに、徹底した売価施策と販売拡大を両立。

住宅用は、収益性を重視した販売戦略を継続し、フラグシップ機『うるさら7』や機能性とデザイン性を追求した『risora』など、中高級機種の販売が伸長。

業務用は、商品ラインアップを活かした提案型の営業を強化。店舗・オフィスなどのリニューアル需要を捉え、都市部を中心に販売を拡大。

アプライドは、低温暖化冷媒R32を採用した新商品を投入し、商品ラインアップを拡充。首都圏の再開発需要を捉え、販売を伸ばした。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		1-3Q 実績
住宅用	業界	108%
	当社	106%
業務用	業界	107%
	当社	107%
アプライド	業界	113%
	当社	112%

※アプライドは売上高ベース

米州

大型減税に伴う設備投資や個人消費の押し上げを支えに市場が堅調に推移するなか、販売網の拡充やサービス事業の拡大を進めたことにより、売上高は前年度を上回った。原材料市況の高騰や、米中貿易摩擦による関税の影響があるなか、売価アップやコストダウンに取り組み、利益確保に努めた。

- 住宅用ユニタリーは、自前販売店の拡大に加え、ミドルゾーンであるSEER16で価格競争力を強化したインバータ機の投入により、販売が好調に推移。シェアを大きく伸ばした。
- ダクトレスは、VRVで販売網を強化し、北東部を中心に住宅用ハイエンド市場で販売を大きく伸ばした。
- アプライドは、販売網強化や商品ラインアップの拡充による機器の拡販に加え、サービス事業を拡大。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		1-3Q 実績
住宅用ユニタリー		114%
ダクトレス	RA/SKY	123%
	VRV	125%
アプライド		115%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン

※VRV・・・業務用マルチエアコン

※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

中国

米中貿易摩擦による景気減速や政府の新築住宅抑制政策により市場環境が悪化するなか、品揃えの強化や地方都市での拡販により、売上高は前年度を上回った。内作化や自動化などのコストダウンを推進し、利益確保に努めた。

- 住宅用市場では、地方都市を中心に、独自専売店「プロショップ」を拡充し、中高級住宅向け「ニューライフマルチシリーズ」の販売を拡大。また、大都市では、市場の変化に対応した一般住宅向けの新商品を投入。
- 業務用市場では、店舗・事務所向けから大型ビル向けまで品揃えを強化。成熟市場である大都市では、インターネットを活用して顧客と繋がる「インテリジェントVRV」を投入し、更新需要を獲得。
- アプライド市場では、大型物件から中小物件まで、きめ細かな販売活動を展開。商品ラインアップの拡充による機器の拡販に加え、サービス事業でも販売を拡大。

〈市場別販売状況(現地通貨売上高ベース)〉

(前年度比)	1-3Q 実績
住宅用※	101%
業務用	101%
アプライド	107%

※住宅用マルチエアコン含む

欧州・中近東・アフリカ

欧州では、緩やかな景気回復基調を背景に、環境対応商品の販売が伸長。
中近東で、通貨安の影響を受けたが、地域全体では前年度を上回った。

- 住宅用は、スペインで天候不順の影響が残ったが、フランス・イタリアを中心にR32機など高付加価値商品を拡販。
- 業務用は、VRVは、競合他社の価格攻勢を受けるなか、スペックイン活動を強化。SKYは、欧州でR32機など高付加価値商品の販売を拡大したが、中東での販売が落ち込み、地域全体では前年度を下回った。
- 暖房事業は、環境性能の高いヒートポンプ式温水暖房機器の販売を大きく拡大。
- アプライドは、R32を採用したチラーなど環境規制強化を捉えた商品を拡販。最大市場である中東に加え、フランス・スペインでも販売が伸長。
- 冷凍・冷蔵事業は、ザノッティ社との販売網・商品ラインアップの相互活用により販売を拡大。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		1-3Q 実績
住宅用(RA)		102%
業務用	SKY	87%
	VRV	103%
暖房		124%
アプライド		109%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン

※VRV・・・業務用マルチエアコン

※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

アジア・オセアニア

各国で、大都市から地方都市まで販売網を拡充。地域ニーズを捉えた差別化商品の展開、サービス体制の強化、営業人員の拡充の推進により、売上高は前年度を上回った。

- 住宅用は、インド・タイ・インドネシアを中心に各国で販売を伸ばした。
- 業務用は、販売店の育成に注力するとともに、各国の省エネニーズを捉えたVRVのラインアップを拡充し、スペックイン活動を強化。インド・ベトナム・タイを中心に販売を拡大した。
- アプライドは、マレーシアの新工場稼働による製品供給力の強化により、販売を大きく伸ばした。

■ 売上高上位国の対前年同期比(現地通貨ベース)
 オーストラリア:111% インド:114% ベトナム:107%
 マレーシア:110% タイ:113% インドネシア:123%

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		1-3Q 実績
住宅用(RA)		111%
業務用	SKY	107%
	VRV	118%
アプライド		130%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン

※VRV・・・業務用マルチエアコン

※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

半導体市場や、自動車市場での拡販に加え、トータルコストダウンの推進や売価アップにより、売上高・営業利益ともに前年度を大きく上回った。

➤ フルオロカーボンガスは、欧州を中心とした原料価格高騰および需給逼迫に対応した売価アップにより、売上高を大きく伸ばした。

➤ 樹脂・ゴム

ーフッ素樹脂は、米国でLANケーブル用の新商品の販売が好調に推移。半導体市場向けでも、世界各地域で販売を伸ばした。ヘロフロン社(イタリア)の買収による連結効果もあり、前年度を大きく上回った。

ーフッ素ゴムは、米国や日本を中心に、自動車市場向けに販売が堅調に推移。

➤ 化成品は、表面防汚コーティング剤『オプツール』の販売が減少したが、撥水撥油剤は中国・アジアを中心に販売を大きく伸ばした。

〈製品別販売状況(売上高ベース)〉

(前年度比)	1-3Q 実績
全フッ素化学品	114%
ガス	123%
樹脂・ゴム	117%
化成品ほか	105%

エアフィルタは、日本・欧州で半導体・製薬などハイエンド市場向けに販売を伸ばしたが、米国・アジアでは販売が減少し、売上高は前年度を下回った。

P&I※では、厳しい需要環境の中、アフターサービス事業の拡大を中心に事業体質の改善に努めた。

※P&I・・・ガスタービン、大規模プラント等の業務用集塵システム

(億円)	2017年度		2018年度	
	1-3Q実績	年間実績	1-3Q実績	年間計画
設備投資	639	966	585	1,000
減価償却費	496	667	540	680
研究開発費	459	621	477	680



ダイキン工業株式会社

予測に関する注意事項

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその確実性・完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願い致します。本資料の見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断により生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。